

メッセージアウトライン

ローマ15：14～21 「キリストが成してくださったこと」

[14-15]「私の兄弟たちよ。あなたがた自身が善意にあふれ、すべての知恵に満たされ、また互いに訓戒し合うことができることを、この私は確信しています。……」

「善意」とは、やさしく他の人々への思いやりに満ちている品性のこと。誤解や対立を解くために、まず第一に大切なことはこの善意。「知恵」とは、あらゆる問題に対する正しい理解と洞察力のこと。問題を正しく理解することこそ解決の第一歩。「互いに訓戒し合うこと」とは互いに教えたり、勧めたり、戒めたりすることのできる能力。

パウロはこれらがローマ教会の人々に十分備わっていることを確信していると言う。しかし、それにもかかわらず、彼がこれまで大胆に書いてきたのは、彼らにもう一度思い起こしてもらうためであったと15節で言う。パウロはこのようにローマ教会の自覚に訴え、自ら様々な問題の解決に取り組むようになることを願っている。

[16-17]「それも私が、異邦人のためにキリスト・イエスの仕え人となるために、神から恵みをいただいているからです。私は神の福音をもって、祭司の務めを果たしています。それは異邦人を、聖霊によって聖なるものとされた、神に受け入れられる供え物とするためです。……」ここにパウロは自らの使命感をのぞかせている。彼は神によって、もっぱら異邦人伝道の使命が与えられている。そしてその使命を祭司の務めとして説明している。祭司は神と人との間に立って和解と交わりのためにとりなしをする。「…供え物とする」とは、彼が異邦人にキリストの福音を宣べ伝えることによって、彼らが救われ、聖霊によってきよめられ、神に喜んで受け入れられる者とするという意味。彼はこの務めに誇りを持っている。(17)

[18-19]神はパウロを用いて多くの異邦人を救いに導かれた。そのようにキリストが彼を用いて成し遂げてくださったこと以外は何も話そうとは思わないと言う。キリストがなしてくださったことは、まず「ことばと行い」。キリストはパウロをして福音を語らせ、愛の行動をとらせた。そして「しるしと不思議をなす力」によって、それを裏打ちし、「御霊の力」によって、人々が信仰に入るようにしてくださった。その結果として、パウロはエルサレムから始まって、イルリコに至るまでキリストの福音をくまなく宣べ伝えることができたのである。「イルリコ」…マケドニアの北、アドリヤ海側の地方。

[20-21]「このように、私は、他人の土台の上に建てないように、キリストの御名がまだ語られていないところに福音を宣べ伝えることを切に求めたのです。……」

パウロは他の人々がまだ福音を宣べ伝えていない所を、あえて選んで伝道した。これは今で言う開拓伝道。これには多くの困難と労苦が伴う。このパウロの伝道精神は神の御計画とも一致する。彼はそのことを21節でイザヤ書52:15節から引用して語る。彼はこの箇所を、福音についてまったく知らなかった人々が、福音を宣べ伝えられて信じるようになるという意味で使っている。

私たちもまた神に仕える者として、それぞれの置かれている場で、神に用いられ、神の栄光のために豊かに実を結ぶものとならせていただきたい。→ I コリント6:19～20